

平成27年度の鳥取県立博物館

1 総 論

開館後40年以上経過し、施設設備の老朽化や収蔵庫の狭隘化、駐車場不足など当館が抱える課題への早急な対応が求められる中、県教育委員会は、昨年度設置した「鳥取県立博物館現状・課題検討委員会（会長は元文化庁長官の林田英樹氏）」の検討結果（3分野のうち美術分野を博物館の外に出した方が解決できる課題が多くデメリットが少ないこと）や平成27年2月に実施した県政参画電子アンケートの結果（過半数の方が美術館整備を希望されたこと）等を総合的に勘案して、美術分野のための新たな施設を整備する方向で検討を進める方針を同年4月に決定した。

27年度は、美術館整備に向けた具体的な検討を進めるため、7月に、館内に「美術館整備推進担当」を設置するとともに、外部有識者で構成される「鳥取県美術館整備基本構想検討委員会（会長は元文化庁長官の林田英樹氏）」を設置した。

同検討委員会は同年7月から28年3月にかけて5回開催され、美術館を整備する場合のコンセプト、施設設備、立地条件、運営費、運営手法及び整備手法等について順次議論するとともに、県外の先進的な美術館等の視察も行った。

また、平成28年2月には、各市町村から推薦のあった候補地等について、検討委員会が設定した立地条件に照らして専門的見地から評価する「鳥取県立美術館候補地評価等専門委員」を選任し、同年3月には各候補地の現地調査を行うなど評価作業に着手した。

一方、現状・課題検討委員会から別途検討指示のあった運営手法の一つである地方独立行政法人制度については、その導入の可能性を探るため、県と博物館等を設置している13市町村参加による「博物館等地方独立行政法人制度研究会」を設置するとともに、参加団体所有施設の現状調査や地方独立行政法人化した場合の財務推計等を一般社団法人鳥取県中小企業診断士協会に委託した。

同研究会は27年6月から28年2月にかけて5回開催し、地方独立行政法人化した場合の制度面・財務面等のメリット・デメリット等について、中小企業診断士協会からの報告も参考にしながら検討を重ねた。28年3月には研究結果を取りまとめた「鳥取県博物館等一括運営地方独立行政法人設立可能性調査報告書」を策定するとともに、同月、同報告書を博物館等を有する市町村等に送付の上、28年度以降、法人化に向けた更なる検討を進める意向の有無について照会を行った。

以上のように、本年度は、美術館を整備する場合の基本構想づくりを精力的に行うとともに、その途中途中で、経済・文化・教育等の各種団体や一般県民向けに基本構想の内容を説明する「出前説明会」を開催するなど、県民の理解を得ながら丁寧に作業を進めた。

このため、検討の進捗が予定より遅れ、当初27年度中を目指していた基本構想の策定は、翌年度にずれ込むこととなった。

通常の博物館の活動としては、博物館資料の収集・保存、展示、館内外での普及活動などを、例年どおり着実に実施した。平成20年度以降毎年5本ずつ開催している企画展については、今年度も自然関係1本、歴史・民俗関係1本、美術関係3本を実施し、夏季に開催した「大恐竜展」は3万人を超える来場者で賑わった。

普及活動では、平成25年度から世界的に著名な日本の科学者や、先進的な研究を行っている研究者による講演会（サイエンスレクチャー）を開催しており、平成27年度は、小惑星イトカワの微粒子解析を行った岡山大学の中村栄三博士と、最新恐竜学について国立科学博物館の真鍋真博士の講演会を当館で開催した。また、学校教育における博物館利用を促進するため、国立科学博物館との共催で「教員のための博物館の日」として、教員を対象に講演会や展示解説を実施した。

山陰海岸学習館に関わる動きとしては、平成27年11月17日にフランスのユネスコ本部で開催され

た第38回ユネスコ総会において、これまで、ユネスコの支援事業として行われてきた世界ジオパークネットワークの活動が、「国際地質科学ジオパーク計画」として、世界遺産と同じユネスコの正式事業となったことを受け、知事（山陰海岸ジオパーク推進協議会顧問）を始めとする関係者列席のもと記念セレモニーを開催し、今後のジオパーク活動にとって大きな弾みとなった。

また、平成28年2月には、平成26年1月に岩美町で水揚げされた全長約3.2mのダイオウイカの液浸標本の展示公開を行うとともに、3月には、山陰海岸学習館の展示更新等の具体的な計画を策定し、来館者ニーズに対応した展示の更新を行うこととした。

(1) 組 織

7月に総務課内に「美術館整備推進担当」を設置。専任職員1名（課長補佐）が配属され、美術館を整備する場合の基本構想策定に向けた体制が整えられた。

また、学芸課人文担当に古文書整理専門員（非常勤職員）を雇用し、近年寄贈を受けた古文書の確認・整理業務に着手した。

(2) 資料の収集・調査研究

自然部門では大山を中心としたチョウ類コレクションや鳥取県に生育する希少植物の標本が寄贈されるなど、様々な貴重な標本を収集した。これらの標本の整理や鳥取県の生物相に関する調査研究を実施し、その成果をデータベースや研究報告などで発表した。

人文部門では、近世・近代の鳥取県に関する古文書や民俗資料等の寄贈を受けた。

美術部門では、企画展に関する調査を行うとともに、鳥取県の美術に関する調査を継続して行い、土方稲嶺《太公望図》、沖一峨《雪中鴛鴦図》、森岡柳蔵《巴里市外セーブル公園》、辻晋堂《野良の父と子》などを新たに収集した。

(3) 展 示

企画展5回（自然分野1回、人文分野1回、美術分野3回）を開催し、博物館全体（山陰海岸学習館を含む。）の事業に12万人を越す来館者があった。

〈企画展の概要〉

自然分野：全長約12mのティラノサウルスや、その子どもという説のある愛称“ジェーン”などの全身骨格、世界最大の羽毛恐竜ユティランヌスなどの生体模型、そして恐竜の視野体験装置やティラノサウルス・ロボットなど約100点の資料を展示し、恐竜の進化と生態について、最新の研究成果に基づき迫力と楽しさ満点に紹介した。

人文分野：当館では、戦後50年を契機として平成7年に県内の戦争関係資料の調査を始め、3,000点を超える資料を収集した。今回、戦後70年を節目として、昭和6年（1931）に勃発した満州事変から昭和20年（1945）8月15日の終戦までの間における鳥取出身の将兵や郷土部隊、銃後の県民生活、戦時下の子どもたちの姿を展示した。あわせて、戦争の記憶を伝えるものとして、重要度が増すと思われる「戦争遺跡」のなかから、県内の旧軍用地や戦争記念碑等も紹介した。

美術分野：今年も美術部門では三つの企画展を企画した。「ポーラ美術館コレクション レオナルド・フジタ展」ではポーラ美術館所蔵の名品の中から藤田嗣治の作品に焦点をあて展示した。「日本近代洋画への道」では笠間日動美術館所蔵の山岡コレクションより青木繁や高橋由一、黒田清輝ら日本洋画の黎明期の名品を紹介した。「コウゲイノモリへー探求する工芸家たち」では県内外で活躍する工芸家8名の仕事を紹介した。

(4) 教育普及

普及関係では、県民の生涯学習を支援するため、巡回展・移動博物館・出張教室などのアウトリーチ事業のほか、館内外で講演会・観察会・各種講座・ワークショップなどを開催した。

巡回展・移動美術館・出張教室は、県下38会場で実施し延べ6,704人が参加した。また、各種講座や講演会は、年間を通して105回開催し、延べ3,844人の参加があった。

美術の普及講座では、「毎週土曜はアートの日!」を実施し、毎週土曜日に美術に関する事業を実施し、アートにふれあう機会を充実させた。また、移動美術館については近年、年間1回開催とされていたが、本年度から2回開催とし、当館から離れた地域における美術文化鑑賞の機会を充実させた。

また、自然・人文・美術・山陰海岸学習館の各担当の講座を有機的に結びつけたコラボ企画も定着しつつある。

広報に関しては、対象年代や広報手段について検討し、より効果的な広報を実施するとともに、教職員に対する広報の一環として、県内の小中高等学校及び特別支援学校の全教職員に対し、ニュースレター「鳥取県博物館ニュース」を年2回配布した。

(5) 来館者サービス

平成21年度から継続して、開館時間を次のとおり延長し、来館の機会を広げた。

〔 4月1日～10月31日の特別展示の期間中の土曜日、日曜日及び国民の祝日
に関する法律に規定する休日は午前9時～午後7時 〕

受付付近にトイレ・常設展示室入口への案内表示を増やし、来館者にとって分かりやすい表示を行っている。

2 各課の概況

(1) 総務課

- ・県及び博物館等を設置している市町村参加による博物館等地方独立行政法人制度研究会を設置し、研究会を5回開催。
- ・鳥取県美術館整備基本構想検討委員会を設置（告示設置）し、5回の委員会開催と先進施設視察を実施。
- ・鳥取県美術館整備基本構想における建設候補地について、鳥取県立美術館候補地評価等専門委員による現地調査及び条件適合性の評価を実施。
- ・県立博物館外壁等改修工事に係る実施設計委託及び県立博物館自動制御設備改修工事に係る実施設計委託を実施（営繕課受託施工）。

(2) 学芸課

●自然担当

- ・企画展「大恐竜展～進化と生態のなぞ～」
- ・田中昭彦植物標本整理事業（5か年）4年目
- ・谷口正夫・遠藤勝壽地学標本整理事業（5か年）2年目

●人文担当

- ・企画展「戦後70年 鳥取と戦争」
- ・歴史・民俗展示室改善充実事業 近現代・民俗の展示替え
- ・鳥取県の歴史民俗事象調査事業〈鳥取県内の戦争遺跡〉

- ・藩政資料整備事業（16か年）11年目
- ・収蔵資料保存・修復事業（16mmニュースフィルムのデジタル化、刀剣研磨）
- ・「鳥取藩政資料」解説・研究事業（6か年）4年

●普及担当

- ・学校教育支援事業の開催
- ・学校・市町村・教育機関と連携した普及事業の推進
- ・移動博物館、移動美術館、学芸員派遣等の募集及び調整
- ・各種広報活動の立案及び実施
- ・公式ホームページの管理運用
- ・収蔵資料データベースサーバーの管理運用
- ・普及誌「鳥取県立博物館ニュース」No.20、21の発行
- ・リーフレット「2016.4－2017.3 展覧会・イベントのご案内」の発行

●山陰海岸学習館

- ・展示解説等の来館者対応や小中学校等の団体利用の充実
- ・山陰海岸ジオパークの魅力を学ぶ野外観察会および自然講座の開催・充実
- ・山陰海岸ジオパークの魅力を伝える3D映像を2本立てで上映
- ・ダイオウイカ液浸標本の展示公開及び関係コーナーの展示替え

(3) 美術振興課

- ・今年も美術部門では3つの企画展を開催した。「ポーラ美術館コレクション レオナルド・フジタ展」ではポーラ美術館所蔵の名品の中から藤田嗣治の作品に焦点をあて、さらに藤田と交流のあった作家たち、そして藤田の制作風景を記録した土門拳の写真を展示した。紹介されることの少ない戦後の作品も多く展示され、反響を呼んだ。秋の「日本近代洋画への道」では笠間日動美術館所蔵の山岡コレクションより青木繁や高橋由一、黒田清輝ら日本洋画の黎明期の名品を紹介し、合わせて本館所蔵の同じ時代の洋画も展示した。「鳥取の表現者たち」の7回目の展示となる「コウゲイノモリへー 探究する工芸家たち」では県内外で活躍する工芸家の仕事を陶芸、染織からガラス、七宝にいたる幅広いジャンルから選抜して一堂に紹介し、好評であった。
- ・2階近代美術展示室では、「生誕100年 前田直衛展」「稲阜と稲升」「染織の美」「絶対立体！」、夏休みの子ども向け企画として「高校生キュレーター・プロジェクト わたし、どんなかお？」の5本のテーマ展示を開催した。
- ・1階美術常設展示室では、おもに分野別にテーマを設定して、鳥取県を代表する江戸時代から現代までの作品を年間を通して紹介する「コレクション展Ⅰ～Ⅷ」を開催した。
- ・年間を通じて毎週土曜日に美術普及活動を展開する「毎週土曜はアートの日！」を本年度も実施し、ワークショップ、アートセミナー、アートシアター、ギャラリートーク、企画展関連事業等を通して美術に関する教育普及に努めた。